

# 医科研病院だより



第39号

発行：東京大学医科学研究所附属病院  
平成30年4月15日  
〒108-8639 東京都港区白金4-6-1  
代表電話03-3443-8111  
ホームページ <https://www.transrec.jp/>

## CONTENTS

病院長退任にあたって……………	1
すこやか・カフェ……………	2
栄養サブリ……………	3
なんでも・ひろば……………	4

## 病院長退任にあたって

東京大学医科学研究所附属病院 前病院長 小澤 敬也

この3月で2期4年間を務めた医科研病院長を退任することになりました。135床という規模は大学病院としては大変小さく、やはり運営は大変難しかったというのが実感です。医科研病院は、国立大学附置研究所附属病院としては全国唯一のものであり、橋渡し研究（トランスレーショナル研究：TR）と早期臨床試験を推進することをミッションとするプロジェクト病院ですから、100床程度は適正規模であると思います。但し、そのようなプロジェクト診療を無理なく行うには、大きな総合病院と連携することがやはり重要であり、医科研病院では常に議論されてきた点でもあります。また、経営という視点からは、どうしても非効率であることは否めません。一方、全国の主な大学医学部附属病院も本格的にTRに取り組むようになってきていますので、医科研病院をこれからも存続させていく（ノ）

（ノ）ことを世の中で認めてもらうには、やはり医科研病院ならではの特徴あるプロジェクトを展開していくことが必須であると思います。現在、病床稼働率の低下が問題となっていますが、さらに多くの患者さんを確保するという現実的問題に対処するためにも、難治性疾患に対して魅力的かつ有効な治療法の開発に取り組んでいくことが医科研病院の使命です。私は医科研病院に赴任する前は、自治医科大学附属病院で遺伝子治療と細胞治療をメインテーマとしてきました。医科研病院でもこのような先端医療の展開を期待されていたものをと思いますが、やはり4年間は短く、不完全燃焼に終わってしまったことは大変残念に思っています。私の後任の東條有伸病院長には、是非とも医科研病院らしいプロジェクトを大きく推進していただきたいと思っています。

私は今後も日本における遺伝子治療の開発に取り組んでいきますが、医科研病院のさらなる発展を期待しております。



# すこやか・カフェ



## 渡航外来を始めます

感染免疫内科 菊地 正

海外に行かれたことのある方は、どのような準備をされたでしょうか？旅行、出張、留学、赴任、ボランティア、研究など様々な目的で、世界中に渡航される方がいらっしゃいます。現地での仕事や観光の手配、交通手段、宿泊先、衣食住の他にも様々な準備をされたことと思います。健康面での準備はいかがでしょうか？

例えば、途上国に1ヶ月滞在すると、半数以上の方が何らかの健康問題を自覚すると言われています。渡航者の感染症で最も多いものは細菌性やウイルス性の下痢で、例えばインドに2週間旅行すると、3人に1人以上が下痢をします。私も学生時代のインド旅行でひどい下痢をしました。生水や氷を摂らないことは気を付けていても、生の野菜や、生焼けの肉などはつい食べてしまいがちです。まずはこれらの食べ物や水を介する感染症に注意が必要です。また、食べ物や水で感染する感染症のうち、A型肝炎や腸チフスはワクチンも有効です。その他に、東南アジアの多くの都市では蚊に刺されることで感染するデング熱が大流行しますし、アフリカなどではマラリアの予防も大切です。多くの途上国では哺乳類に咬まれて感染する狂犬病への注意も必要です。空気感染する麻疹（はしか）は、東南アジアなどへの旅行で感染することは珍しくありません。また感染症の流行状況は日々変わります。

海外渡航に伴う健康面のリスクは、感染症だけではなくありません。持病が悪化した際の対応や、現地の医療事情などを事前に調べておくことも大切です。長期間飛行機に乗ることも健康上のリスクに繋がる場合もあります。最近では南米ボリビアのウユニ塩湖への旅行が人気ですが、この地域の標高はほぼ富士山頂の高さ（3700m）です。高山病の対策も地域によっては必要になるでしょう。また、長期の海外赴任では精神的なストレスが一番の問題になることも多くあります。そして、事前の健康診断も欠かせません。

これら様々な渡航の際の健康面でのリスクをできる限り減らし、安全に渡航ができるようにサポートをするのが渡航外来の役割です。

### ワクチン

感染症の予防のために役立つツールの一つがワクチンです。ワクチンと言えば、毎年冬にインフルエンザワクチンを接種している方が多いことと思います。その他にも、麻疹、風疹、A型肝炎、B型肝炎、狂犬病、腸チフス、破傷風、日本脳炎、髄膜炎菌、黄熱病、ポリオなどのワクチンが渡航の際に役立ちます。このうち、下線を引いたものは、子供の頃に定期予防接種としてすでにワクチンを接種しているかもしれません。できれば御実家などで母子手帳を探してみてください。ワクチンによっては過去に十分な回数(✓)

(✓)接種している場合、追加での接種は少ない回数で済む場合があります。逆に子供の頃のワクチン接種回数ที่ไม่十分な場合は、渡航の予定がなくても、追加で接種が勧められるものもあります（例えば麻疹、風疹、おたふくかぜ）。渡航地や期間、活動内容や過去のワクチン接種歴に基づいて、どのワクチンを何回接種することが望ましいかを判断します。ワクチンを接種する場合、2-3回の接種を要するものもあるため、渡航の準備の場合はできる限り1-2か月以上前から受診することをお勧めいたします。

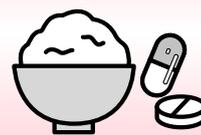


### 渡航後

そして、渡航後にも注意することがあります。下痢や感冒やインフルエンザなどは1日から数日という比較的短い潜伏期で発症しますが、マラリアや腸チフス、A型肝炎などの特に注意を要する感染症の潜伏期は1週間から4週間程度と比較的長いものがあります。渡航中や帰国後に熱が出た場合、普通の風邪だと思っていると、極めて危険な場合があります。特にマラリア流行国（特にサハラ以南アフリカとパプアニューギニアなど）に渡航後に発熱した場合は、当院などマラリアの検査のできる病院に受診することが必要です。

医科学研究所では、これら海外で感染してしまった後の診療も今まで通り行ってまいります。渡航外来として海外に行く前の予防を今後さらに充実させてまいります。赴任や、留学はもちろん、短期の出張や御旅行の際にも、是非お気軽にご相談頂ければ幸いです。

# 栄養サプリ



～こんな症状でお困りのあなたへ～

## 食事がすすまない時の食べ方アドバイス

(減量が必要な方は対象外となります) 栄養管理室

少量で高カロリーのものをとる



フレンチトースト

パンに牛乳、卵、砂糖を浸しバターで焼く

少しずつ数回に分けて食べる



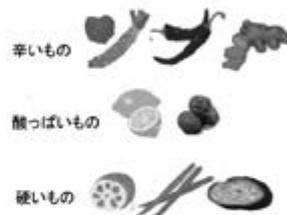
小さい食器に少量盛り付ける  
一口サイズのおにぎりにする

すぐ食べられるものを用意する



“食べたい”と思った時、すぐに食べられる手軽なもの

刺激の強いものを控える



栄養補助食品を利用する



薬局やスーパーなどでも購入可能

少しか食べられない

口内炎が痛い

食事の量が  
普段より減っている方

やせた

気持ち悪い

大好きなものを食べる



医師から特別な指示が無い場合

口の中を清潔に保つ



食前食後など歯磨きうがいをこまめにする



唇、舌、あご、頬などを動かすよう意識する

むせる

食べるのが面倒くさい

唾液が出ない

味覚の変化がある

気分転換に食卓を飾る



テーブルクロスを敷いたり花を飾ったりする

飲み込みやすいものを用意する



あんかけ料理



ゼリー類



湯豆腐



すし飯類



お茶漬け



雑粥



マヨネーズ料理  
(ポテトサラダ)



温泉卵



茶碗蒸し



たまご豆腐



果物



デザート

さっぱりしたものを食べる

会食などの機会をつくる



友人や家族と一緒に楽しく食事をする

食事は大切ですが、あまり神経質にならず“楽しく、おいしく”食べてみましょう。  
入院・外来にて栄養相談も承ります。お気軽に病院スタッフまでお問い合わせ下さい。



## 医療安全について

医療安全管理部 血液腫瘍内科 今井 陽一

医学・医療の進歩はまさしく日進月歩の勢いで、治療が困難であった患者さんに対しても新たな治療の手段が得られるようになりました。このような進歩が得られた一方、診断・治療の方法は複雑化しており医療従事者がどんなに注意しても診断・治療の過程で患者さんの安全に関わるインシデント（出来事）・アクシデント（事故）が発生する可能性があります。当院では医師・看護師からなる医療安全管理部を中心に、インシデント・アクシデントを未然に防ぎ安全な医療を患者さんにお届けするために、医療安全の遂行に取り組んでいます。実際に外来・病棟でどのようなインシデント・アクシデントが発生しているかを把握するために、昨年導入された電子カルテシステムを活用して、インシデント・アクシデントのレポートシステムを運用しています。これによって、院内のすべての職場でインシデント・アクシデントの詳しい発生状況を迅速に報告することができます。得られた情報は医療安全管理部スタッフが詳しく解析してインシデント・アクシデントの原因を追究し再発を防ぎます。インシデント・アクシデントを未然に防ぐ取り組みとしては、月1回定期的に行われる院内ラウンド（写真）も重要であると考えています。医療安全管理部のスタッフを含む数名で各病棟と外来を中心にまわり、普段は気づかないようなことでもインシデント・アクシデントにつながる問題がないかどうかチェック（メ）



車いすのチェックも細部まで見逃しません

（メ）しています。また、実際にインシデント・アクシデントが発生した場合には、医療安全管理部を中心として委員会を開催し原因の究明と再発防止に取り組みます。このような取り組みに加え、全職種職員の医療安全担当者によって構成される委員会で医療安全について話し合い、きめ細かく医療安全の遂行に取り組んでいます。医療安全管理部ではこのような取り組みを通して、皆さまが安全に適切な医療を受けていただけますよう日々努力しております。

### ◆病院からのお知らせ◆

- 臨床検体の取扱いにつきまして  
当院での保存・追加採取検体を用いた臨床研究名をお知りになりたい方は  
[http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/ore/IMSUT\\_ORE\\_7.html](http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/ore/IMSUT_ORE_7.html)  
をご覧ください。

## 東京大学医科学研究所附属病院・ご利用案内

### 診療科

内科（総合、血液腫瘍、感染症、アレルギー・免疫、代謝・内分泌、循環器、消化器）

小児科（小児細胞移植）

外科（一般、腫瘍、消化器、乳腺）、整形外科（関節）

脳腫瘍外科、放射線科、麻酔科、遺伝相談



### 外来診療日

月曜日～金曜日（祝日および年末年始を除く）

### 診療受付時間

8:30～11:30（初診・再診）

12:30～16:00（再診のみ）

※予約時間の15分前までに受付にお越しください。

（確実にご受診いただくために、ぜひ予約をお取りください）

予約専用電話（予約受付および変更）

診察：03-5449-5560

検査：03-5449-5355

受付時間 8:30～17:00（外来診療日のみ）

### アクセス

- 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線で「白金台駅」下車
  - JR山手線目黒駅東口から都バス品93大井町競馬場行で「白金台駅」下車、あるいは都バス黒77千駄ヶ谷行か橋86新橋駅行で「東大医科研西門」下車、または駅より歩いて約15分、タクシーで約5分（1メーター）
  - JR品川駅から都バス品93目黒駅行で「白金台駅」下車
  - 東京メトロ日比谷線広尾駅から都バス広尾橋から黒77または橋86目黒駅行で「東大医科研病院西門」下車
- ※患者専用駐車スペースも数台ございます。ご利用は受付にお申し出ください。